

ふるさと歴史アラカルト

往来の姿は時代とともに

現在、錦川に沿う国道187号と錦川鉄道の線路は、市街地と市内北部を連絡する重要な路線です。どちらも主要な路線でありながら、大正時代以降に造られた比較的新しい路線なのです。今回はこの錦川沿いの往来を見ていきます。

明治時代以前、錦川が流れる村には、川獺や紙の御用船に使用するための川舟がありました。明治時代初期には、舟乗りを生業とする者があり、明治時代末期にかけてその数も増え、舟運業が盛んになります。このような川舟の中心地が南桑村だったため、山代地方と岩国を往復する舟は「南桑舟」と呼ばれていました（写真1）。下りの舟には人や貨物を載せ、積荷は主に薪炭や鉱石などでした。上りの舟には、岩国で仕入れた食料品や衣料などを載せて帰りました。もちろん人も乗せましたが、下りの舟に比べ時間がかかる上、舟賃も高かったため利用者は少なかったようです。その他、木材を運搬する際は筏を組んで運びました。このよう

に明治時代以前は錦川を利用した往来が中心でした。

ところが大正3（1914）年、県道岩国津和野線が開通すると、荷車や自転車などを利用する人が増えていきました。その影響もあり、大正時代末期には筏以外の川舟はほとんど姿を消してしまいます。昭和9（1934）年頃、国鉄バスや石見交通バスが運行を開始し、人の移動方法は次第に自動車になっていきます。昭和15年頃には木材や鉱石の運搬はトラックが主流となり、筏による輸送も見られなくなっていました。さらに昭和35年には岩国駅と河山駅間で岩日線が開通し、鉱石の運搬はトラックに替わり蒸気機関車が担うようになります（写真2）。河山鉱山の閉山後、岩日線は錦川清流線となり現在に至ります。

このように錦川沿いの往来は、時代とともにその姿を変えてきました。次に錦川沿いを通るときは、清流錦川を眺めながら当時の様子を思い描いてみてはいかがでしょうか。

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

※1 現岩国市美川町
※2 現国道187号



（写真1）錦帯橋河原に係留された南桑舟



（写真2）河山駅の鉱石積み込み施設（美川支所蔵）

岩国市 人口・世帯

人口 135,479人 【前月比 - 136人】 男性 64,318人 女性 71,161人

世帯 65,972世帯 【前月比 - 39世帯】 ※外国人人口を含む（平成30年11月1日現在）

交通事故発生件数 10月分事故件数 34件(276件) 死者数 1人(4人) 傷者数 40人(335人)

※高速道路発生分を除く ※（ ）内は平成30年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。 **テレホンサービス ☎231234**

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、広報戦略課広報班へ ☎295016 FAX213337